

2011 年度 事業報告書

NPO 法人ゆいツール開発^ラ工^ボ房

1. 団体の設立趣旨

つながりあう社会へ

私たちは今、高度な効率化・情報化がすすんだ便利な社会に暮らしていますが、人と人の繋がりは薄れ、深い孤独を抱え、生きる喜びが感じられないなどの社会問題も深刻化しています。また世界では、これまで貧しいと言われていた国々が著しく発展し、豊かに暮らす人が急激に増える中で、環境破壊、エネルギー・資源の不足、南北格差など、多くの問題が表面化しています。

今、こうした数多の問題を抱えた社会を生きていくために、多様な情報や選択肢から自ら考え、選び、行動する力が一人一人に求められています。しかし、あふれる情報や便利すぎる社会は、その力を奪い去っています。

ゆいツール開発工房（ラボ）のメンバーは、環境省による体験的な学びの場づくりに携わってきました。その現場経験の中で、現代社会の課題解決の必要性とともに、コミュニケーションによる学び合いの可能性を見い出してきました。

人と人の関わり合いや繋がりを通して、社会の中で損なわれつつある「絆」や「生きる力」「生きる知恵」を取り戻すことができるのではないかと考えました。

そこで、NPO法人ゆいツール開発工房を設立し、人と人の結びつきを生み出す道具（ゆいツール）を開発して社会の中にコミュニケーションや学びの機会を増やすことで、地域でさまざまな人たちがともに学び合える基盤づくり、持続的に活動展開できる環境づくりなどをサポートし、持続可能でいきいきとした地域コミュニティづくりのお手伝いをしていきたいと思っています。

2. 団体の目的と主な事業

ゆいツール開発工房^{ラボ}は、広く日本や世界の人々に対して、ESD（持続発展教育）プログラム開発をはじめとした教育活動事業等を行うことで、社会の中に世代や立場を越えたコミュニケーションや学び合いの機会を創出し、地域コミュニティの持つ課題（環境破壊、少子高齢化、地域文化の衰退など）の解決や、持続可能な社会構築に寄与することを目的とする。

- (1) ESD（持続発展教育）に関わるプログラム開発事業
 - ・ ツールの開発（さまざまな人を対象とした環境教育のための教材開発）
 - ・ 展示パネルの製作
- (2) ESD（持続発展教育）に関わる人材育成事業
 - ・ 指導者育成（環境教育リーダー、インタープリター等の育成）
- (3) ESD（持続発展教育）の社会展開のための事業
 - ・ 参加型プログラムの実施（開発したツールを使った参加型ワークショップの実施）
- (4) 教育活動、地域活性化事業等を行う他の団体との情報交換及びネットワークの構築事業

3. 団体の役員

ゆいツール開発工房^{ラボ}は、以下の役員によって運営されている。

理事長	山本 かおり	
副理事長	小山 厚子	
理事	松原 裕子	有限会社イリュージョンミル代表取締役
理事	松原 雅裕	デジタルウムプロジェクト！主宰
理事	森 高一	株式会社アーバン・コミュニケーションズ
監事	小山 庄三	

4. 会計報告

NPO 法人ゆいツール開発工房 期首貸借対照表(2011年3月31日現在)			
(単位:円)			
資産の部		正味財産の部	
預金	100,489	一般正味財産	100,489
資産合計	100,489	正味財産合計	100,489

NPO 法人ゆいツール開発工房 期末貸借対照表(2012年3月31日現在)			
(単位:円)			
(資産の部)		(負債の部)	
預金	140,994	未払費用	78,000
未収金	139,250	(正味財産の部)	
		一般正味財産	202,244
資産合計	280,244	正味財産合計	280,244

期末貸借対照表脚注

1. 未収金 139,250 円のうち、129,250 円は環境教材開発事業に関わるもので、4月27日に回収済みである。10,000 円は正会員会費に関わるもので、4月5日に回収済みである。
2. 未払費用 78,000 円は、同事業の人件費に関わるものである。

2011年度NPO法人ゆいツール開発工房(ラボ)活動計算書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 計上収益			
1 会費・入金収入			
会費・入金収入			
入金収入(正会員)	100,000		
会費収入(賛助会員)	15,000	115,000	
2 事業収益			
① ESD(持続発展教育)に関わる プログラム開発事業	928,150		
② ESD(持続発展教育)に関わる 人材育成事業	281,304	1,249,993	
③ ESD(持続発展教育)の社会展開 のための事業	40,539		
3 寄付金収入			
寄付金	35,000	35,000	
4 その他収益			
利息	4		
雑収入	0	4	
計上収益計			1,399,997
II 経常費用			
① ESD(持続発展教育)に関わる プログラム開発事業			
(1)人件費	588,000		
(2)その他経費	226,908	814,908	
② ESD(持続発展教育)に関わる 人材育成事業			
(1)人件費	281,304		
(2)その他経費	0	281,304	
③ ESD(持続発展教育)の社会展開 のための事業			
(1)人件費	60,000		
(2)その他経費	15,539	75,539	
雑費	126,491	126,491	
経常費用計			1,298,242
当期経常利益額			101,755
当期正味財産増減額			101,755
前期繰越正味財産額			100,489
次期繰越正味財産額			202,244

5. 活動報告

1. サス塾「生物多様性」「気候変動」講義担当（5月）（8月）〈写真1〉

サス塾（柏市）依頼の教材ツールの開発（生物多様性2、気候変動2）（7月）（11月）

○依頼元：サス塾（柏市）

○内容等：

- ・ 2010年度に納品したプログラムについて、実際に塾生に講義を行った。
- ・ 小学3年生～中学2年生までを対象とした、参加体験型プログラムを2種類開発、納品した。

2. 戸田公園のマンションギャラリーでのイベント補佐（6月）

○依頼元：株式会社アーバン・コミュニケーションズ

○日時：2011年5月28日（土）11：30～17：00/山本

5月29日（日）11：30～15：30/小山

○内容：

戸田公園のマンションギャラリーにて、親子向け体験プログラムの補助を行った。1日目は生憎の雨の中での実施となった。

3. 福島県猪苗代湖の環境教育教材協働制作プロジェクト（7月～3月）〈写真2〉

○日程：2011年7月～2012年3月

○参加主体

NPO法人超学際的研究機構（事業主体）

福島県庁水・大気環境課、猪苗代町企画財務課、郡山市生活環境課、(財)猪苗代町振興公社、
日本大学工学部、猪苗代湖の自然を守る会、福島県地球温暖化防止活動推進員

○事業概要

福島県の「猪苗代湖」をメイン題材に据え、地元の子どもや大人に環境問題について考えてもらうための学習教材ツール「参加型環境学習プログラム 猪苗代湖ものがたり」を、地元自治体を含む各主体が製作プロセスに積極的に関わるワークショップを重ねながら、開発した。

完成後には、地元の主体や活動者に周知するためのプログラム体験会と、実際に活用していただくための練習などを行う使い方ワークショップを開催した。

開発プログラムは4セット製作し、今後地域での活用や貸出しを行う予定である。

日時	場所	タイトル	内容
7/9（土） 9:30～11:30	猪苗代町	連絡調整会議	中心となる関係者による事前打合せおよび顔合わせ。
8/25（木） 13:00～16:00	猪苗代町	環境学習ツール開発・作成 第一回ワークショップ	参加者の初顔合わせと共にモデルとなる宍道湖プログラム「海と川の間に」の体験、猪苗代湖の現状についての講義、プロジェクトの進め方の確認をおこなった。

10/7 (金)	猪苗代町	第二回ワークショップ	猪苗代湖プログラムの第一案を参加者に体験していただき、取り入れたい内容や改善案等を出し合った。
11/10(木)	猪苗代町	第三回ワークショップ	前回の意見を受けて改善したプログラムの第二案を体験していただき、さらに細かい意見や改善案を出し合った。
12/12 (月)	猪苗代町	第四回ワークショップ	プログラムの完成版を体験していただくと共に、各主体において今後どのようにプログラムを活用していくのかを具体的に考え、話し合いをおこなった。
1/20 (金)	猪苗代町	第五回ワークショップ (製作ワークショップ)	完成したプログラムを必要セット数揃えるため、また作り方を学んでいただくため、プロジェクトに関わった関係者自らが実際のツールの製作作業をおこなった。
3/2 (金)	郡山市	第六回ワークショップ (参加型プログラム体験会 および使い方ワークショップ)	福島県内から参加者を募り、午前の部では、開発したプログラムのお披露目として、実際に体験していただくデモンストレーションをおこなった。 午後は引き続き、ツールを実際に用いながら使い方を学んでいただく使い方ワークショップを実施した。

4. 韓国環境教育ネットワーク (KEEN) の招待で環境教育フォーラムに参加 (ソウル近郊) (7月)

<写真3>

○目的:

韓国の環境教育フォーラムに、イリュージョンミル金田氏とデジタルムプロジェクトの松原氏が招待され、ゆいツールの山本と小山も同行した。(旅費の半分を KEEN が負担してくれた)

フォーラムでは、松原氏と金田氏によるアップデートシステムや体験的に伝える展示方法、人材育成についての話などの他、プログラムの紹介なども行った。

併せて、ソウル周辺の環境学習施設の視察も行った。

○日時: 2011年7月15日 (木) ~20日 (水)

○訪問先:

- ・ 緑色成長体験館 (韓国政府によって設立運営されている、ソウル市内クァンファムンの大通り沿いにある、地球温暖化問題等について学べる環境学習施設)
- ・ あは! (城南市: ソンナム市にある地球温暖化に関する情報体験センター)
- ・ ホタルの展示・成育館、ホタルの里
- ・ 漢江川沿いのキャンプ場ととなりあった環境学習施設
- ・ これからオープンするエコセンター

5. 神奈川県立高校の理科の先生向けに講座を実施 (地球温暖化・省エネをテーマにした参加体験型プログラム) (7月)

<写真4>

○日時: 2011年7月

○場所: 神奈川県立生田高校

○参加者：生田高校の教員（主に理科教員）15名程度

○内容：

生田高校の理科の教員向けに、省エネを考えるプログラム「エコのタネを見つけよう」と未来の環境を予測するプログラム「未来は変えられる」を実施した。

6. 東都生協親子向け環境講座（府中市）（7月）

○日時：2011年7月30日（土） 10:00～12:00

○場所：府中市立府中グリーンプラザ 会議室

○参加者：東都生協府中ブロックの組合員7名程度

○内容：

- ・ 「地球温暖化と食べ物」をテーマに、親子向け一日講座を企画実施した。
- ・ 対象は夏休み中の子供（小学生）とし、夏休みの自由研究にも活用できる「お土産ワークシート」冊子も事前に製作した。
- ・ 製作したワークシートのデータは東都生協に納品し、今後の生協活動にも活用していただけるようにした。
- ・ 当日は親子4組8人の申し込みがあったが、天候不良や急病などでキャンセルが相次ぎ、組合員の大人にプログラムを実施した。

7. ゆいツール開発工房^{ラボ}NPO法人取得（9月）

8. 兵庫県環境教育指導者養成講座（神戸、姫路）（9月）〈写真5〉

「生物多様性プログラム」製作、納品（9月）

○依頼元：ひょうご環境創造協会

○日時/場所： 2011年9月1日（木）13:00～17:00/神戸

2011年9月30日（金）13:30～17:00/姫路

○参加者：兵庫県の環境活動指導者及びその候補者 神戸会場 44名、姫路会場 22名

○内容：【講座】

プログラム体験「エコのタネをみつけよう」「いきもの・いろいろ」の後、意図開き&講義「参加型の学びとは」を行い、個人ワーク「対象者に合わせたプログラム作りに向けて」を実施した。その後、グループ内で共有、意見交換。最後に全体で共有、意見交換を行った。

【プログラムツール製作、納品】

講座開催に合わせて、ひょうご環境創造協会へ「いきもの・いろいろ」プログラムツール1式を製作、納品した。

9. 東京環境工科専門学校「地球温暖化を考える」授業（1年生向け計3回、2年生向け3回のみ）（10月、1月）

〈写真6〉

○日時：2011年10月28日9時00分～10時30分、10時40分～12時10分【1回目】

2012年1月27日10時40分～12時10分【2回目】

○参加者：【1回目】1現目 41名、【2回目】2現目 47名 計88名/1年生のみ

【3回目】1年生 37名、2年生 43名 計80名/1,2年生合同

○内容：

1年生に対して、1現目に地球温暖化について興味を持ってもらうきっかけとするために、グループでのプログラム体験を行った2現目は、仕事と温暖化のつながりを意識するために、ワークショップで実施した。

1,2年生合同で、「現地からの報告～しろくまの今～」として動物写真家丹葉暁弥氏のスライド&トークを聞き、意見交換をした。各回とも、最後に「今日気づいたこと」というテーマで文章を書いてもらった。

【1回目】

- ・ “温暖化のメカニズム” 「かくかくしかじかおんだんか」
- ・ “自分の暮らしと地球温暖化のつながりに気づこう” プログラム体験 「エコのタネをみつけよう」

【2回目】

- ・ “仕事とのつながり” プログラム体験&ワークショップ 「ひと×しごと+おんだんか」

【3回目】

- ・ 講義 「現地からの報告～しろくまの今～」
- ・ ゲスト：動物写真家 丹葉暁弥氏
- ・ ゲストとのやりとり

10. 島根県環境教育指導者向け実践講座（松江市、浜田市）（11月）＜写真7＞

ツールの製作、納品「生物多様性プログラム」「エコのタネさがし」他（12月）

○依頼元：しまね自然と環境財団

○日時/場所：2011年11月3日（木・祝）10：00～16：00/松江市東津田町

11月4日（金）9：30～15：30/浜田市野原町

○参加者 地球温暖化に関する出前授業などの活動を自らおこなっていく意欲がある温暖化防止活動推進員 松江市会場 20名、浜田市会場 8名

○内容：【講座】

松江市では、プログラム体験 A※「海と川のあいだに」 B「エコのタネをみつけよう」の後、意図開き&講義「参加型の伝え方の工夫」を行い、午後は、グループに分かれ、A または B のプログラムの練習を実施した。最後に全体で共有、「決意シート」の記入を行った。

浜田市では、プログラム体験 B と C 「いきもの・いろいろ」の後、意図開き&講義「参加型の伝え方の工夫」を行い、午後は、グループに分かれ、C の練習を実施した。最後に全体で共有、「決意シート」の記入を行った。

※プログラム「海と川のあいだに」は、2010年度にゆいツールメンバーが全国地球温暖化防止活動推進センター在籍中に、しまね自然と環境財団と地元の大学、市民団体、行政と協働開発したプログラムツールである。

【プログラムツール製作、納品】

講座終了後、しまね自然と環境財団へ「いきもの・いろいろ1・2」「エコのタネさがし(新)」
「持てるかな? エネルギーのかばん (JCCCA)」プログラムツール1式を各2点ずつ製作、納品
した。

1 1. 保育園児向け環境教育プログラム実施(1月)(3月) <写真8>

○依頼元: クレシュ新横浜

○対象者: 保育園児2~3歳児他20名程度

○開催日時: 2012年1月30日(月) 10:00~10:40 【1回目】

3月27日(火) 10:00~11:00 【2回目】

○内容:

【1回目】

- ・ 紙芝居「さいしょはみんな赤ちゃん」を見せる(どんぐり、野菜の実物を見せる)
- ・ カイワレ栽培セット、水を見せて、それらの役割を説明し、タネを見せてこれからすることを説明する
- ・ カイワレ栽培セットにタネを撒く

【2回目】

- ・ 散歩の前のあいさつ「葉っぱをみつけにいこう」
- ・ 散歩「葉っぱをみつけよう」
- ・ まとめ

1 2. インターンシップ生の受け入れ(東京環境工科専門学校2年生)(2月)

○依頼元: 東京環境工科専門学校

○実施日: 2012年2月

○参加者: 2年生 南雲友行

○実施内容:

1. 参加型プログラムの体験
「いきもの・いろいろ」「エコのタネさがし」
2. 講義「参加型の学びとは」
参加型プログラム「エコのタネさがし」の実施(トレーニング)
3. 参加型プログラムの製作補助

1 3. 東京ガス環境エネルギー館プログラムツールメンテナンス作業(3月)

○依頼元: 東京ガス環境エネルギー館

○内容: 環境エネルギー館のインタープリターが開発したプログラムツールのメンテナンス作業を請け負い、納品した。

写真1-1



写真1-2



写真2-1(第4回ワークショップ)

写真2-2(第4回ワークショップ)



写真2-3(第5回ワークショップ)

写真2-4(第6回ワークショップ)



写真3-1(緑色成長体験館)

写真3-2(あは!での話し合いの様子)



写真3-3(ホテルの里)



写真3-4(フォーラムの様子)



写真4



写真5



写真6-1(10月28日)



写真6-2(1月27日)



写真7-1(11月3日)



写真7-2(11月4日)



写真8-1(1月30日)



写真8-2(1月30日)



写真8-3(3月27日)



写真8-4(3月27日)



NPO 法人ゆいツール開発工房^{ラボ}

〒155-0032

東京都世田谷区代沢 2-19-12

<http://yui-tool.jimdo.com/>

連絡先 : yuitool@gmail.com